
平成30（2018）年度 病害虫発生予報 第6号

平成30（2018）年 9月21日
栃木県農業環境指導センター

〇いちごの病害虫発生に注意しましょう！

予想期間 9月下旬～10月下旬

予報の根拠で、（+）は増加要因、（-）は減少要因を表す。

1 いちご 炭疽病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
 - (2) 根 拠
 - ・現在の発生はやや少ない（平年比34.9%：ほ場率）。（-）
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。（+）
 - (3) 対 策
 - ・発病株や感染が疑われる株は早急に取り除き、ほ場外で適切に処分する。
 - ・水滴の飛散等によって伝染するので、できるだけ水の跳ね返りのないかん水を行う。また、かん水はできるだけ晴天日の午前中に行い、曇雨天日や夕方のかん水を控える。
 - ・症状が出てからの防除は困難なので、予防を主体にセイビーフロアブル20等を散布する。
 - (4) 備 考
 - ・[植物防疫ニュースNo. 7](#)、[薬剤感受性検定結果（QoI剤）](#)を当センターHPに掲載中。
-

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
 - (2) 根 拠
 - ・現在の発生は少ない。（-）
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並または高く、降水量は平年並または多い見込み。（+）
 - (3) 対 策
 - ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
 - ・現在発生が見られなくても、今後発生する可能性があるため、保温開始前からフルピカフロアブル等を散布する。
 - ・発生が見られたらガッテン乳剤等を散布する。
-

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
 - (2) 根 拠
 - ・現在の発生量は少ない。（-）
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並または高い見込み。（+）
 - (3) 対 策
 - ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 - ・化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
 - ・カブリダニ類（天敵）導入時はハダニ類が多いと失敗しやすいので、気門封鎖剤などを定期的に散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
 - ・気門封鎖剤は卵に効果がないため、5日程度の間隔をおき、複数回散布する。
 - ・葉の傷みを防ぐため、高温時や乾きにくい雨天日の散布を避ける。
 - ・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
 - (4) 備 考
 - ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。
-

4 野菜類（いちご・なす等）・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
 - (2) 根 拠
 - ・9月第1半旬までのフェロモントラップによる誘殺数はやや多い。（+）
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並または高い見込み。（+）
 - (3) 対 策
 - ・定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
 - ・幼虫の齢期が進むと被害が大きくなる上に、薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。
-

5 野菜類・花き類 タバコガ類

(1) 発生予想 発生量：多い

(2) 根 拠 ・ 9月第1半旬までのフェロモントラップによるオオタバコガの誘殺数は多い。
(+)

・ 向こう1か月の平均気温は平年並または高い見込み。(+)

(3) 対 策 ・ 植物組織内部に食入すると薬剤防除が困難になるため、発生初期に防除する。

・ 施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。

・ 被害果実はほ場外に持ち出して適切に処分する。

・ 果実や花、頂芽などに寄生するため、防除が遅れると被害が大きくなる。寄生されやすい部位をこまめに観察する。

6 その他の病害虫

	現 況	発生予想		現 況	発生予想		
きゅうり	べと病	平年並	やや多	きく	ハダニ類	平年並	やや多
	うどんこ病	やや多	やや多		アザミウマ類	平年並	やや多
ねぎ	黒斑病	平年並	やや多				

秋の病害虫防除対策

☆イネ縞葉枯病

・ 縞葉枯病が発生したほ場の再生稲（ひこばえ）は、媒介虫のヒメトビウンカの増殖源と縞葉枯ウイルスの獲得源になります。現在、ヒメトビウンカ成虫が平年より多く発生しているため、早急に丁寧な耕起を行いましょ。

☆麦類種子伝染性病害

・ 近年、オオムギ斑葉病等の種子伝染性病害が増加しています。種子消毒を適切に行いましょう。

☆トマト黄化葉巻病（TYLCV）

・ TYLCVはタバココナジラミによって媒介されます。媒介虫や感染源となる罹病植物を施設内に「入れない」対策を徹底しましょう。

☆いちごのアザミウマ類

・ 頂花房の開花が10月上旬以前から見られる施設では、秋期からアザミウマ類が発生しやすく、翌年の発生も早まる傾向があるため、適切に防除しましょう。

☆ナシ黒星病（秋季防除）

・ 病原菌は芽や落葉で越冬し、翌年の発生源となるため、収穫終了後は徒長枝の先端までまんべんなく薬液がかかるよう丁寧に薬剤散布を行い、園内外の落葉を集めて適切に処分しましょう。防除の際は周辺へ飛散（ドリフト）しないよう十分注意しましょう。

☆農薬は適正に管理し、正しく使いましょう！

☆同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

1か月気象予報（予報期間9月22日から10月21日 9月20日気象庁発表）

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

	低い（少ない）確率	平年並の確率	高い（多い）確率
○気温	20%	40%	40%
○降水量	20%	40%	40%
○日照時間	40%	40%	20%

NEWS & INFORMATION

☆「栃木県農薬管理指導士」養成研修（11月7～8日）・更新研修（11月7日）が開催されます。申込期間が9月10日～10月12日となりますので、特に更新対象者の方はお忘れなく申込みください。詳しくはJA全農栃木県本部肥料農薬課までお問い合わせください。TEL(028)616-8840

詳しくは農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。